

### ◆西法寺(梶原)

内海知量

十一月十二日(土) 報恩講法要を厳修いたしました。当日は天気も良く組内の法善寺・一念寺・西教寺(春日町)の総代様、門信徒様を含め四十名の方が参拝され賑々しく正信偈をお勤めいたしました。

十一月十五日(火) 撰津十二日講肝煎物故者追悼法要並びに御名号法座を勤修しました。街道下門徒様三十名がお参りされました。十一月十九日(土) 門徒十一名と正覚寺、西教寺(萩之庄)様と一緒に伝灯奉告法要に参拝しました。多くの門徒様が感激され喜ばれていました。



### ◆普賢寺

横場清久

当寺では春の永代経法要、秋の報恩講法要をはじめ仏教婦人会の彼岸法要や垣内ごとの在家報恩講を執行しております。

昨年度勤修しました報恩講法要にも雨の中大勢の有縁の方々が参り下さり、仏教讃歌・お勤めで声を共にしご法話を聴聞いたしました。

特に目新しい取り組みはしておりませんが、一人でも多くの方に足を運んでいただき一度でも多くお法に触れていただけるよう地道に法座活動を続けていきたいと思います。



# 島上南組

## だより

浄土真宗本願寺派  
2017(平成 29)年 1月  
第5号  
編集・発行  
高槻市大塚町西證寺内  
島上南組実践運動委員会

### ✦ 組長ごあいさつ

島上南組組長 尾崎貞良

新年明けましておめでとうございます。

毎年お正月を迎えるたび過ぎ去った日々を振り返り、後悔と反省しきり。そして今年こそはと未だ来ぬ未来に向かって希望や期待をもって計画を立てる。毎年初詣の様子がテレビで映し出される。その多くが神社での祈願。

相田みつをさんの詩に「お賽銭百円玉一ツ ポンと投げて手を合す お願いごとの多いこと」とあり思わず笑ってしまいました。そのお願いは切実なものがあるかと思われませんが生きることに熱心になるあまり生きる手段である「お金や物」に目を奪われ、欲に目をくらまされて、生きる方向を見失っている出来事が多い様に思います。

「目的地のない航海は漂流である」という言葉がありました。ただ生きて死ぬなら犬や猫と変わりません。生死を越えた阿弥陀

### ✦ 如衆水入海一味

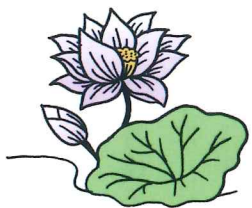
西教寺(春日町) 堀川憲慧

能発一念喜愛心 不断煩惱得涅槃

凡聖逆誘齊回入 如衆水入海一味

これは「正信念仏偈」の一文です。阿弥陀如来の大誓願を慶喜(きょうき)して真実の信心を発起すれば、煩惱具足のそのままに、お浄土で大涅槃を得るのです。凡夫も聖者も、五逆罪も謗法(ぼうぼう)罪も、無戒(むかい)のものも闡提(せんたい)も、回心して如来の本願海に入れば、どんな川の水も同じ塩味となるように、煩惱具足のわれらもみな弥陀と同じさとりをさとするのです。

仏教一般では、釈尊の教を学び、迷いを転じて悟りを開き、煩惱を断じて涅槃に至る教です。そのためには戒律を守って身辺を正し、禪定を修して精神を平安にさせ、智慧を開発して善悪正邪を分別し、三祇(さんぎ)百劫(ひやくこく)の間修行するのです。しかし煩惱具足の凡夫が、一生修行し実践で勉学と修行に二十年の間、心血を注いで励まれましたが煩惱を断ちきれず、ついに法然聖人に帰依され、それ以降は九十年の生涯を通して称名(しょうみ)よう念仏の教を喜ばれたのです。「正信偈」の前文に、「しければ釈尊の真実の教に帰依し、祖師方の論釈を拜読するに、仏恩の深遠(じんおん)なるを信知して正信念仏偈を作つて曰く」と、本願念仏に遇いた喜びと仏恩報謝の思いから、六十行百二十句の「正信偈」を詠まれたのです。私達は法律や道徳では善人であり、行為も言葉も柔和(にゅうわ)で親切な相(すがた)ですが、心底を凝視すれば煩惱が渦(うず)まいていられるのも事実です。無明(むみやう)煩惱は我が身に満ちみちて、欲も多く怒り腹立ち、ねたむ心多く、臨終の一念まで消えることはありません。はるか昔から今日まで、煩惱や悪業(あくごう)に汚染されて、嘘偽りへつらつて清浄心も真実心も無いこの私が、如来ご回向の真実信心一つです。



### ✦ 仏教婦人会より

仏教婦人会副会長 溝口紀代子

佛の救いを聞く我々は幸いに、人生の漂流者になることなく、人生の目的地をお浄土とお示し頂き、往生成仏をお約束頂いていられるお名号(なごう)を依りどころに、安心の人生を歩むことが出来ます。宗祖親鸞(しんらん)聖人は「煩惱具足の凡夫(ぼんぷ) 火宅無常(かたくむじょう)の世界は よろづのことごとくたわごと、まことあることなきに 念佛のみぞまことにておはします」とお教えいただいております。本年も共々に、わかり合い・助け合い・拝みあって生き抜かせて頂きたいと思えます。何卒よろしくお願い申し上げます。

合掌

仏教婦人会結成五十周年・若婦部会結成十周年記念大会に向けて仏婦会員皆様のご協力のもとコーラスをはじめ記念品制作・銭太鼓・花笠音頭・ハンドベルなどの活動をしております。皆様にご期待していただける大会になるよう頑張りますので大きな気持ちで見守って頂きたいと思えます。また、組長様はじめ各寺院のご住職様、会所のお世話を頂いております坊守様に感謝いたします。



## 本山伝灯奉告法要に参拝して

西教寺(萩之庄) 藤井 弦

二〇一六年十月から翌二〇一七年五月まで第二十五代専如門主の伝灯奉告法要が厳修されています。六ヶ月間全十期、計八十日に分けて執り行われます。島上南組でも寺院ごとによらず、れかの期に参拝することになって



十一月十九日(土)野田正覚寺、萩之庄西教寺、梶原西法寺の三ヶ寺は島上南組二班参拝団として参拝してきました。午後二時からの法要でしたので先に昼食を済ませてから西本願寺に入りました。

大阪教区は熊谷教務所長直々のお迎えがありました。本願寺の参拝団受け入れ体制はスムーズで到着してから法要終了後、本願寺出発までトラブルはありませんでした。法要は阿弥陀堂、御影堂、同時進行で始まり

テレビ画面で確認しながら離れた両堂で同じ法要を進めるといってIT技術が駆使され、法要の途中で導師(新門主)が入れ替わる仕掛けもあってなかなか工夫された法要でした。ただ法要の時間が退堂までほぼ二時間かかったのでトイレを我慢できなかった参拝者もおられたようです。四時過ぎに本願寺を出発して六時前に高槻へ無事帰ってきました。



## 実践運動委員会より

実践運動委員長 藤井 弦

去る十一月七日(月)に寺族、門信徒、計九十二名の参加者を得てJAたつき本店「豊穰の間」において島上南組重点プロジェクト「葬送儀礼」研修会を開催しました。テーマを「帰三宝偈にふれる」に設定し、巖水法乗講師より問題提起がなされ、そのあと5班に分かれて班別協議をしました。

用意した帰三宝偈のテキストを中心にして日常では触れることの少ない帰三宝偈というお経について学習しました。葬儀式では出棺勤行としてよく耳にする機会のあるお経ですが、多くの参加者には全く馴染みのないお経だったようで、その存在を知って頂いただけでも有意義な研修となりました。

あわせて圓正寺、内本康宏師よりキッズサンガ「子ども・若者ご縁づくり」の推進活動についての報告がありました。今後はこの研修をどのように実践に活かしていくかを考えていきたいと思っています。



## 若婦部会より

若婦部副部長 内本賀与

九月二十七日、第二回若婦部研修会として各寺で不要となったロウソクを再利用したキャンドル作りを西應寺で行いました。それぞれに素敵な作品ができあがり大満足! その後仏婦会の方々による銭太鼓の披露となり、有意義な一日を過ごすことができました。

## 総代会より

総代会会長 玉村圭二

去る九月二十五日(日)圓正寺で聞法会を行いました。出席人数四十五名、ご講師に本願寺派布教使、藤実無極師(滋賀県報恩寺住職)をお招きし「いつでも どこでも ありがとう」を演題に講演していただきました。聞法会は年四回行っている研修会のうちの一回で毎年、組外から講師を招いています。

次に本年度事業として組内寺院報恩講参拝を行いました。毎年順番に五ヶ寺の報恩講法要に総代を五班に分けてお参りしてもらい他寺院報恩講を見学し総代・門信徒との交流を深めるようにしています。



## 寺族婦人会より

寺族婦人会副会長 奥野香代子

九月二十九日(木)寺族婦人会第二回研修会を行いました。龍谷ミュージアムで開催されている第二十五代専如門主伝灯奉告法要記念 特別展「浄土真宗と本願寺の名宝」を受け継がれる美と「ころ」を鑑賞してまいりました。国宝「三十六人家集」をはじめ全国各地寺院所蔵される宝物を拝見しました。

前門様の伝灯奉告法要記録フィルムも拝見し、親鸞様から専如門主様までの歴史を感じる、貴重な時間となりました。その後、嵐山を散策、生八つ橋手づくり体験をしました。これからも寺族婦人会として見識を深める研修会を続けていきたいと思っています。



## 寺院紹介

(代) 横場清久



◆ 圓成寺  
当寺では門信徒さまと共に盂蘭盆会(お盆の法要)と報恩講法要を勤めています。現在代務での住職につき満足な法座活動はかありませんが、当寺は駅から近く利便性がありますので沢山の方々にお参りいただける活動に繋げていきたいと考えております。

